

相模原市総合写真祭

# フォトシティさがみはら

# TOPICS

昭和100年、戦後80年の今年は写真表現が誕生して200年



左写真は今年1月28日、田名のご自宅に江成さんをお訪ねして撮影。左手に支えられた右腕は2000年のガンから生還した手術以来、挙げることはできない。手術後の重いウツから回復するのに数年を要した。

※2006年発行の写真集『生と死の時』に記録。

現在、その右掌にカメラを置いて「いのち」を撮り続けている。相模原に※2024年4月に写真集『いのちのかたち』を発行。生まれ育ち、このまちの人々に作品を捧げたいと相模原市に寄贈した写真は2000点余りに及ぶ。

## 記憶の装置としての写真をやがみはらから発信 江成常夫さんの写真作品、米国史センターに收藏へ

(テキサス州オースティン)

時代に向き合わぬまま置き去りにされた昭和の人々の記録を撮りつづけ、記憶を表現してフォト・ジャーナリズムの泰斗となった江成常夫さんの写真作品がブリスコー米国史センターに收藏されます。2020年に『被爆 ヒロシマ・ナガサキ いのちの証』から144点がすでに收藏されていますが、2024年『まぼろし国・満洲』『鬼哭の島』など7テーマ約600点余りが新たにデータ提供される覚書がかわされました。これだけの点数の個人写真が收藏されることは、江成さんの歴史に向ける深い思想性と靈性を掬いとる写真表現への揺るぎない評価があつてのことです。同じまちの市民として誇らしいこと限りありません。

平成・令和と時代の推移する中、昭和の歴史を振り返るとき、米国史センターが戦争の加害性を含めた歴史的資料を收藏する姿勢は示唆に満ちています。

そして、記録を写真表現を通して記憶とした江成さんの作品の多くを預かる本市の役割の重要さも高まってきているのではないのでしょうか。

【ドルフ・ブリスコー米国史センター】



米国テキサス州にあるテキサス大学オースティン校付属歴史博物館。世界有数の公的アーカイブスで、歴史研究の拠点として社会分野、自然科学、音楽、映像など多岐にわたり媒体資料を保存する。写真作品の收藏はピューリッツァー賞受賞者を中心に60人を超える。日本人写真家の一連の業績が評価され、作品群が收藏されるのは初めて。センターの名は第41代テキサス州知事にちなむ。



フォトシティさがみはらプロの部審査員

### 伊藤俊治さんのコメント

昨年、被団協にノーベル平和賞が与えられたように、戦争の負の遺産へ世界的な注目が集まっている。平和と鎮魂を希求する江成さんの半世紀以上にわたる写真群は、その優れた記録性と表現力で歴史的資料として計り知れない価値を帯びている。

